

県産タケノコ水煮増産

経営革新計画 県が承認

壬生の「まるつね」

県内で唯一、県産タケノコの水煮を製造する農産物加工・卸のまるつね(壬生町壬生甲、戸崎泰秀社長)は22日までに、水煮の生産増強、タケノコ生産者の収益改善、竹林の管理支援に取り組む経営革新計画について、「中小企業の新たな事業の促進に関する法律」に基づく県の承認を受けた。来春からの増産へ現在3人の契約生産者を20人に増やし、材料の安定確保を図るとともに、生産者の収入増へ協力体制を築く。

(早川茂樹)



県産タケノコ水煮の増産を目指す戸崎社長(右)と弟の戸崎専務(壬生町壬生甲)

生産者の収益改善図る

計画によると、契約生産者に、規格ごとに選別してのタケノコ持ち込みを依頼。節間が小さく、柔らかいS級を中心に高い買い上げ価格を設定し、生産意欲を高める。市場が受け入れない規格外品も原則全量買い上げる。材料の安定確保に合わせ、約5千万円の新規設備投資を行い、タケノコの外皮をむく「荒皮処理機」などを導入する。材料の規格がそろつことなどで、作業工程が短縮され、ランニングコストは3割程度削減できる見通し。

スーパーが中心だった販路は、給食分野への拡大を目指す。竹林管理支援は宇都宮大農学部付属里山科

布団・枕干し機能が付いた「すのこベッド」と高橋社長(鹿沼市茂呂)



学センターと連携し、生産者に良質な材料を生み出す竹林づくりへの助言をするほか、荒廃した竹林の再生にも取り組む。直近の県産タケノコの年間扱量は約8ト。5年後に10倍に増やすことを目標にして

命感を持って準備を進めた布団1枚が干せる「すのこベッド」は、累計販売が10万台を超えるヒット商品となった。その後、「枕も干せる商品がほしい」との要望を受け、新型の開発に取り組んだ。価格は1万円前後。本年度は1万台の販売を目標としている。

布団・枕干し機能付き すのこベッドに新型

木製品製造・販売な「すのこベッド」の「めいじ屋」(鹿沼市茂呂、高橋和雄社長、0289・65・3322)は、就寝以外に布団・枕干しにも

県林業振興課によると、県内のタケノコ生産量は2008年に全国13位の407ト、出荷額(推計)は1億6280万円。最多は宇都宮市の90ト。

マロニエ大山ビル

宇都宮 負債総額は

は県内産ヒノキの間伐材、中国産キリの2種類がある。干し台としては1枚ずつ使用。上部が狭いX型にワンタッチで開閉できるようになっており、立てて布団を掛け枕を乗せる。高橋社長は「枕を干す機能や、安全性、耐久性の確保に腐心した」と話している。10年ほど前に発表した。負債総額は約11億

不動産賃貸のマロニエ大山ビル(宇都宮市池上町、小山晴男社長)が22日までに、宇都宮地裁から破産手続き開始決定を受けたことが、東京商工リサーチ宇都宮支店の調べで分かった。負債総額は約11億

同社は2月、周辺を含め総額8億、周辺中心沿いに9階2〜4階で屋、焼肉店

短 信

加圧トレ無料体験会

ICI石井スポーツ宇都宮今泉店(宇都宮市中今泉3丁目)は26日、腕、太ももの付け根に加圧して行うカーツトレーニングの無料体験会を開く。午前10時半〜が男性限定、午後2時〜と同4時半〜が女性限定。各回2時間、定員12人。問い合わせ、申し込みは☎028・639・9650。

受賞記念しキャンペーン

食肉加工の渡清(宇都宮市東)

